

三加和  
中学校  
学校たより

# 磨き合う

15月22日  
12月22日(金)

## 今年を振り返って...



今年も残すところあとわずかとなりました。時がたつのは早いものです。この1年、この通信の表題通り、自分をしっかりと磨くことができたでしょうか？私はしっかりとまではいきませんが、三加和中の生徒が頑張っている姿に感化されて、いくつかのことにチャレンジし、少してですが自分磨きができたように思います。やる気を起こさせてくれた生徒の皆さんには、感謝の一言に尽きます。

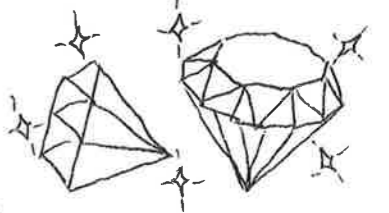
さて磨くというと、掃除だったり、鏡だったり、ガラスを磨く、という連想があるかと思いますが、私は専門が理科ということもあり、宝石の研磨をイメージします。実は宝石と人とは似たところがあるんです。宝石は発掘された時の原石は、ただの石ころと同じで他の石と見分けがつかないくらいです。そこからしっかりと磨かれ、その宝石に合った形にカットされることでそれぞれが持っている光輝きを出すんです。そのときに、ダイヤモンドがきれいだからといって、ルビーをダイヤモンドと同じ形にカットしても光輝かないんです。

宝石が光輝くのは、その石特有の屈折率があり、表面から入った光が屈折し、全反射してその光がもう一度表面に出てくるから光輝くんです。だから、ダイヤモンドにはダイヤモンドの屈折率に合わせたカットのしかたがあり、ルビーにはルビーの屈折率に合わせたカットのしかたがあるんです。もしないと、うまく光を反射しないので輝かないんです。

人も同じです。他の人と同じようにしたからといって、その人と同じように輝けるかというところではないんです。勉強で輝く人もいれば、運動で輝く人もいます。優しさで輝く人もいれば、誠実さで輝く人もいます。

自分に合ったカットのしかたが必要なんです。そして、当然宝石は磨いてくすみをとらないと、カットしただけでは光り輝きません。それは人も同じです。自分に合ったカット(例えば仕事だったり、何かの役割だったり)をしただけで光るわけではなく、その後、自分を磨いて鍛えないと光らないんです。

そして、その磨き方は、それぞれの宝石に合った研磨剤があるように、それぞれの人に合った磨き方があるんです。



宝石では、研磨剤が合えば傷だらけになったり、逆に磨いても磨いても全く磨けなかったりします。人生でいろいろと様々なことにチャレンジしてもなかなかうまくいかない状態のことです。だから、うまくいかないことは失敗ではなく、このやり方ではうまく磨けない、ということに気づき、新たな自分磨きの方法を探すべき、かけになるんです。そうやって、自分に合う磨き方を見つけたら、何回も何回もくり返し、光るまで磨き続けるしかないんです。

そして最後に忘れてはならないことは、自分から光り輝く宝石はない、ということ。宝石が光輝くのは、受けた光を内側で反射させているから光り輝くのです。人も同じで、周りから受けた恩や思いを自分の内側で反射させるから光輝くんです。その恩や思いを感じきれない人は、どんなにうまくカットしようが、どんなにきれいに磨いたとしても光り輝きません。

今、家族や身近な人から受けている思いをしっかりと感じて自分の中に入れていまか？自分への「愛情」を「うらやま」とか思っていないか？  
思いを受け入れなければ、その光を反射させて光り輝くことはできませんよ！！

1年の終わりにあたり、自分が受けた光をしっかりと振り返ってみましょう！！

おみせ人、ほげ  
子ども向けの  
通信になってしま  
いました。  
来年もよろしくお願ひし封。

